

バリアフリー体験 感じた寄り添う心

南陽・宮内の児童

南陽市内の小学4～6年生で組織するボランティアサークル「ぼらんていあひろば ぴよっこ」の中の、「宮内ぴよっこ」のメンバーが18日、地元の宮内小学区内でバリアフリー体験会を開いた。

16人が参加し、宮内公民館から近くのスーパー・ヤマザワ宮内店まで、車いすを使って移動。店に到着してからは、車いすに乗ったままで商品選びから会計まで済ませたほか、重りや関節が動きにくくなるサポーターを身に着け、ヘッドホンで周囲の音を聞こえにくくした。買い物を通して、障害者や高齢者の生活を疑似体験した。

車いすに乗った5年生の伊藤^{なぎ}凧^きさん(10)は「道路は障害物があって通りにくかった。店内の通路も車いす利用者にとっては狭かった。周囲の人の助けが必要だし、バリアフリーも大事だと思った」と話していた。体験会は、児童に障害者や高齢者の気持ちを理解してもらおうと、市社会福祉協議会と市が共催した。

(黒沢光高)



車いすに乗り、買い物に挑戦する児童たち
＝南陽市・ヤマザワ宮内店